

補綴歯科治療に潜むドグマ

矢谷 博文^a, 佐藤 博信^b

Dogmas in Prosthodontic Treatment: Introductory Remarks

Hirofumi Yatani, DDS, PhD^a and Hironobu Sato, DDS, PhD^b

“ドグマ”とは何か？ドグマとはもともと「教条、教義」を意味する宗教用語であり、語源はギリシャ語である。現代では宗教を離れて、あたかも疑いようのない真実のように扱われている強い意見 (strong opinions held as if they were unquestionable facts) という意味で使用されることが多くなっている。

翻って、歯科補綴学研究は豊かな臨床経験則に基づき、臨床先行型研究として発展してきた。そのため、伝統的に少数のオピニオンリーダーの影響力が強く、サイエンスから遠いところに向かいがちであった。サイエンティフィックなエビデンスにもヒエラルキーが存在し (図 1)、オピニオンリーダーの意見は実はヒエラルキーの最下位に位置づけられているのである。したがって、われわれが日常臨床において正しいと信じて疑わない補綴歯科治療技術のなかには実は臨床エビデンスに裏打ちされていないドグマも多く含まれているものと思われる。

また、表 1 は PubMed を用いて 歯科補綴学 (prosthodontics) 関係の論文数を調べ、歯周病学 (periodontics) 関係の論文数と比較したものである。論文の総数は、歯科補綴学関係論文が歯周病学関係論文の約 4 倍多いが、質の高い研究の代表であるランダム化比較試験の割合は歯周病学が 8.27% であるのに対して歯科補綴学が 2.26% で約 1 / 4 に過ぎず、メタ分析の割合も歯周病学が 0.46% であるのに対して歯科補綴学が 0.17% と約 1 / 3 しかないのである。すなわち、このような分析データにも歯科補綴学に多くのドグマが潜む素地が現れているといえる。

未来の歯科補綴を考えると、歯科補綴学の真の意味でのサイエンスとしての地位を確立することが必要である。すなわち、補綴歯科治療全体のレベルの引き上げを



図 1 Hierarchy of scientific evidence
科学的エビデンスのヒエラルキー

表 1 Literature in the field of prosthodontics
歯科補綴学分野の文献数

歯科補綴学	91,187
ランダム化比較試験	2,060 (2.26%)
メタ分析	154 (0.17%)
歯周病学	22,858
ランダム化比較試験	1,891 (8.27%)
メタ分析	106 (0.46%)

[2011 年 5 月 20 日検索]

図るためには、偶然性の強い個人的経験や観察に基づく歯科医療から、体系的に収集され、確認された臨床エビデンスに基づく歯科医療へと転換し、患者中心の補綴歯科治療につなげていかなければならない。

そこで、(社)日本補綴歯科学会第 120 回記念学術大

^a 大阪大学大学院歯学研究科クラウンブリッジ補綴学分野

^b 福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野

^a Department of Fixed Prosthodontics, Osaka University Graduate School of Dentistry

^b Section of Fixed Prosthodontics, Department of Oral Rehabilitation, Fukuoka Dental College

会(2011年5月20~22日,広島)において,前学術委員のなかから選ばれた3名の先生方にそれぞれ異なる問題提起を行っていただき,それに対してイエテボリ大学名誉教授 Gunnar E. Carlsson 先生から臨床エビデンスに基づいたアンサーをいただくというきわめて斬新なスタイルのシンポジウムを開催した。Carlsson 先生は *Acta Odontologica Scandinavica* および *International Journal of Prosthodontics* の編集委員長を長い間お務めになり,補綴歯科臨床における臨床エビデンスに通暁しておられることはよく知られている。そこで本シンポジウムにもっともふさわしい先生として来日を要請したところ快諾をいただき,本シンポジウムの開催が実現した。

問題提起を行ったのは,水口俊介先生(東京医科歯科大学),前川賢治先生(岡山大学),小見山道先生(日本大学)の3人である。取り上げた問題は,それぞれドグマが多く含まれていると考えられる全部床義歯の印象法,治療的咬合,顎関節症の補綴歯科治療の3つであり,問題提起に続く Carlsson 先生からのアンサーとディスカッションを通じてこれらに含まれるドグマを浮かび上がらせることを試みた。

著者連絡先: 矢谷 博文

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-8

Tel: 06-6879-2951

Fax: 06-6879-2947

E-mail: yatani@dent.osaka-u.ac.jp